

「ありました。テレビでも一報道特集」で取材・放映等取り上げられる中、各方面から多くの講演依頼が寄せられました。

昨年は治安維持法100年の年として、国賠同盟が社会的にも注目をされました。京都新聞、朝日新聞、毎日新聞、上毛新聞、赤旗、京都民報などの新聞報道、女性のひろば、前衛等の寄稿も

2026年の年頭にあたり 京都府本部会長 原田 完

軍事費は当初予算に関連経費を含め10兆円規模、しかも防衛省の高額兵器購入費など過去最大となり、私たちの暮らしを直撃することは明らかです。

自民党高市政権の次期予算案は、国民の願いである消費税減税や賃上げに背を向け、財界・大企業優先、軍事費を異常に突出させる大軍拡、対米屈服の予算案となっています。

した。また、国賠同盟近畿プロツク交流会と治安維持法100年の市民集会を、京都の民主的個人・団体の実行委員会で開催し大きく成功させました。

軍事優先の歪んだ予算案は東アジアでの軍事的緊張を高め、平和を脅かす危険な予算です。今、国民への負担の押し付け、大軍拡や大企業・富裕層優遇税制をただす大きな運動が求められています。

もう一つは貧困による生活のストレスの蓄積と自己責任論を強制され、判断が勢いに飲み込まれた結果があります。国民党主党の「現役世代の貧困は高齢者のせい」「高齢者には尊厳死を」はその典型例であり、これまで

辺り、国民党・民主党や参政党をはじめとする補完勢力として、自民党は不安への怒りを抑え込める方法として、自己責任論を振りまき、維新や参政党、国民党など右翼ボピュリズムでSNS上にデマとうその情報を流し、その信ぴょう性を確かめることなく、あたかもそれが実だと思い込みをさせる戦略を図っています。

歴史修正主義と復古主義の動きと、排外主義の台頭
先の参議院選挙では排外主義をあおる政党が議席を伸ばすといふ状況が生まれました。少数与党となつた自民党は維新を取り

もう一つは貧困による生活のストレスの蓄積と自己責任論を強制され、判断が勢いに飲み込まれた結果があります。国民党主党の「現役世代の貧困は高齢者のせい」「高齢者には尊厳死を」はその典型例であり、これまで

検討委員会」95年に侵略戦争は正義だったとする「大東亜戦争の総括」の出版、97年には「日本会議」が発足し「日本の前途と歴史教育を考える会」や「新しい歴史教科書をつくる会」なども発足しました。岸信介の孫である安倍晋三政権が06年に発足し「戦前は美しい日本だ



(619号付録)
京都版 第473号
2026年1月15日
安維持法犠牲者
家賠償要求同盟
京都府本部

〒604-8832 京都市中京区
壬生下溝町 51-41
TEL : 075-312-8787
FAX : 075-325-3863
E-mail
info@kokubai-kyoto.com
ホームページ
<https://kokubai-kyoto.com>

《前号の続き》

京都学連事件のリーダーだった「ソ連抑留者」淡徳三郎の戦後の軌跡について。

10年間の政治亡命と3年半のソ連抑留の淡が1948年8月12日、引揚船で舞鶴に帰国しました。1950年6月に参院選の民統会議候補大山郁夫の応援、櫛田フミの選挙事務長などもしました。同9月、平和擁護日本委員会に参加。レッドページで地下に潜った徳田球一の東京第三区から、淡は無所属・共産党推薦で1952年9月に立候補し落選。1953年2月、再度、衆院選東京三区より立候補、落選。淡は朝鮮戦争時のレッドページに対し、「戦争反対・平和擁護」の立場を堅持し続けました。

淡は1953年6月15日、大山郁夫と一緒に世界平和評議

会ブダペスト会議に出席し、モ

スクワで大山郁夫の「国際平和賞」受賞に秘書役兼通訳で同行しました。戦前の労農党委員長

として大山郁夫を統一戦線の「結節環」として淡は支え手となりました。

1954年8月14日付『朝日新聞』)の外務省と公安調査庁の共同発表

「ラストボロフ失踪事件の真相」(1954年8月14日付『朝日新聞』)

1954年1月24日、旧ソ連の諜報員だったラストボロフがアメリカに亡命しました。ソ連大使館員だったラストボロフがアーティカに亡命しました。ソ連大使館員だったラストボロフは、在日エージェントから情報を収集していました。

1954年1月24日、旧ソ連の諜報員だったラストボロフがアーティカに亡命しました。ソ連大使館員だったラストボロフは、在日エージェントから情報を収集していました。

958年10月)で逮捕、控訴して無罪判決

1956年4月、日本アジア連帯委員会は谷川徹三団長、石川達三を副団長とする文化使節団をインド、エジプトからヨー

ロッパに派遣し、事務局長として淡を世話役にしました。

1956年4月、日本アジア連帯委員会は谷川徹三団長、石川達三を副団長とする文化使節団をインド、エジプトからヨーロッパに派遣し、事務局長として淡を世話役にしました。

1956年4月、日本アジア連帯委員会は谷川徹三団長、石川達三を副団長とする文化使節団をインド、エジプトからヨーロッパに派遣し、事務局長として淡を世話役にしました。

1956年4月、日本アジア連帯委員会は谷川徹三団長、石川達三を副団長とする文化使節団をインド、エジプトからヨーロッパに派遣し、事務局長として淡を世話役にしました。

1956年4月、日本アジア連帯委員会は谷川徹三団長、石川達三を副団長とする文化使節団をインド、エジプトからヨーロッパに派遣し、事務局長として淡を世話役にしました。

1956年4月、日本アジア連帯委員会は谷川徹三団長、石川達三を副団長とする文化使節団をインド、エジプトからヨーロッパに派遣し、事務局長として淡を世話役にしました。

アメリカの情報機関は、淡が

帰国した1948年8月12日

の1週間後から監視を開始し、組織全貌と淡の人脈を調査する

が狙いでした。取り調べは警視

としています。平和擁護委員会

として大山郁夫のソ連入国手続きのため、大山郁夫のソ連大使館の出入りを監視され

ていたのでしょう。

この間、1960年に日本ア

ジア・アフリカ連帯委員会事務

局長を辞任しましたが、追い出

されたようであると主任弁護士

の森長英三郎は推測しました。

1956年4月、日本アジア連帯委員会は谷川徹三団長、石

川達三を副団長とする文化使節

団をインド、エジプトからヨー

ロッパに派遣し、事務局長として淡を世話役にしました。

1956年4月、日本アジア連帯委員会は谷川徹三団長、石

川達三を副団長とする文化使節

団をインド、エジプトからヨー

ロッパに派遣し、事務局長として淡を世話役にしました。

日本アジア・アフリカ連帯委員会の社会的信用を傷つけ、組

織全貌と淡の人脈を調査する

が狙いでした。取り調べは警視

としています。平和擁護委員会

として大山郁夫のソ連入国手続きのため、大山郁夫のソ連大使館の出入りを監視され

ていたのでしょう。

この間、1960年に日本ア

ジア・アフリカ連帯委員会事務

局長を辞任しましたが、追い出

されたようであると主任弁護士

の森長英三郎は推測しました。

1956年4月、日本アジア連帯委員会は谷川徹三団長、石

川達三を副団長とする文化使節

団をインド、エジプトからヨー

ロッパに派遣し、事務局長として淡を世話役にしました。

1956年4月、日本アジア連帯委員会は谷川徹三団長、石

川達三を副団長とする文化使節

団をインド、エジプトからヨー

ロッパに派遣し、事務局長として淡を世話役にしました。

その後、転向反共右翼になつた田中清玄と同時期の東大新人会出身の吉川光貞（1930年、法学部卒・元共産党員）が、1964年に公安調査庁に長官としてカムバックしました。70年安保シフトと言えまいか。

しかし、1933年当時には一旦、自分の弱さから転向声明をだしたもの、自分を取り戻すために、思想善導団体・大孝塾に「擬装加入」し、留学を理由にパリに旅立ち、「フランスの人民戦線」研究を通じて、淡は自分の初心をとりもどしたといえるのではないか。

元思想検事吉河と学連事件の淡は、同時代に對峙していたといえます。スパイ防止法や国家情報局などが取りざたされる今日、歴史の検証が求められます。

府本部副会長 佐藤和夫

支部だより

京丹後支部

副支部長 森 勝

新年あけましておめでとうございます。

昨年は治安維持法公布100年の中年であり、年末まで諸課題に取り組みましたが、数字的には不十分に終わりました。

国会請願の個人署名は12月末日現在422筆、署名した同盟員は42%です。

宇治洛南支部

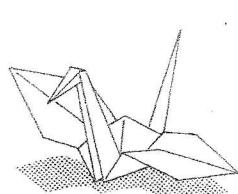
支部長 山崎 恭一

戦争の危険が現実味をおびる年高市首相の台湾発言、自民・

同盟費は90%の納入率で、あと一息です。

戦争の危険が現実味をおびる年法、非核3原則見直しときて、トランプのベネズエラ侵略。

新春のつどい」を1月24日(土)午後1時30分より丹後民主商工会で行います。原田会長に来



く予定です。激動する政治情勢のもと会員の活動交流を行い、お互いに励ましあつて京都府知事選挙勝利をはじめ諸課題の達成に向けて決意を固め合い、今年のスタートにする決意です。

4月の知事選挙の前に総選挙実施が濃厚のようです。

民主主義と平和に正面から攻撃をしかけてくる政党がいくつも出てきました。こうした戦争推進勢力に厳しい審判を下すためには頑張る決意です。

年に活動を広げた宇治洛南支部は、その成果を守つてさらに若い世代へと広げられるかどうかが問われる年を迎えています。新しい役員を加えて、治安維持法とともにスパイ防止法についての学習会開催などで、戦争が問われる年を迎えています。